

息子の「好き」から始まった農業人生！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



五城目町

さくら農園

代表 伊藤 さくら

経営概況

経営面積 | ハウス6棟(60a)・露地

作物 | ミニトマト・ほうれん草・小松菜・水菜・サツマイモ等

構成員 | 代表と両親

販売先 | JA 直売所、市場、学校給食、老人ホーム

五城目町でさまざまな野菜を栽培する伊藤さくらさんを紹介します。息子の「好き」をきっかけに始めたミニトマトの栽培を経て就農しました。高温やイノシシ被害などの課題に向き合いながら、農業を通じて地域に貢献したいという思いを胸に、家族や地域とのつながりを大切にしながら挑戦を続けています。

▶ きっかけ

「息子がミニトマト好きだったから。」伊藤さんが農業を始めるきっかけは、とても身近なところにありました。息子さんのために、知人からミニトマトの苗を譲り受け、自家消費を目的に栽培を始めたのが最初だったそうです。

栽培を続ける中で、自分で育てたミニトマトのおいしさや商品としての可能性を実感し、「もっと多くの人に届けたい」という思いが強くなりました。そして平成28年に就農し、本格的に農業の道へ進みました。



● さくら農園のハウス(6棟)

▶ 取組

伊藤さんは、両親とともに家族3人で主にミニトマトを栽培しており、誘引や芽かき、収穫、パック詰めなど忙しく作業を行っています。ハウスは就農時の2棟から現在は6棟まで増やし、JAあきた湖

東の直売所での販売や市場、学校給食、老人ホーム等へ出荷しています。

近年は、高温による病害の発生や資材価格の上昇に悩まされていますが、遮光ネットを導入するなど安定生産に努め、今では消費者に喜ばれるおいしいミニトマトを届けることが、伊藤さんのやりがいとなっています。



ハウス内のミニトマト

また、地域では20頭規模のイノシシの群れが目撃され、農作物の被害が大きな課題となっています。昨年は露地栽培のサツマイモが被害を受けたことから、その対策のため狩猟免許を取得しました。「イノシシを丸焼きにして食べてみたかった。」というユーモアあふれる理由もありますが、その背景には鳥獣被害への強い危機感があり、地域農業を守るための取組の一つでもあります。さらに、五城目町農

業委員やJAあきた湖東理事、指導農業士として活動し、自らの経営だけでなく地域農業に力を注ぎ、女性農業者の立場から担い手確保や農業振興にも貢献しています。



採れたてのミニトマト（品種名：ほれまる）

▶ これから

「楽しいことをしていきたい。」そう話す伊藤さん。将来は自ら生産した農産物を活用した農家居酒屋や飲食店を開きたいという夢を持っており、ミニトマトを使ったピザなど、地元食材の魅力を活かした料理を提供し、多くの人が集まる場所をつくりたいと考えています。家族や地域とのつながりを大切にしながら、これからも地域に根ざした農業を続けていきます。

● 印写真：さくら農園提供

